

令和4年度自己評価表

鳥取県立米子白鳳高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)		多様な背景を持つ生徒に「学ぶ意欲」を育て、「優しさと感謝」の心を育み、「自分も役に立ちたい」と前向きに共生する資質と自立のための能力・態度を育む。			今年度の 重点目標		1 学ぶ意欲の喚起・育成 2 心豊かに他と共生する態度の育成 3 「ふるさと」とつながる心の育成 4 社会的な自立に向けた支援		
年 度 当 初					評 価 結 果 (9) 月				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策		
1 学ぶ意欲の喚起・育成	○授業のユニバーサルデザイン化	○「分かる」を大切にしながら主体的に授業に取り組む態度を育てることが必要である。	○学習に集中し、意欲的に授業に参加することができる。 ○単位修得率70%以上	○全職員による生徒情報の共有 ○全ての教員によるユニバーサルデザイン研修・合理的配慮の視点を取り入れた授業の展開 ○支援が必要な生徒への個別指導	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮についての説明を転入職員に行った。 ○支援員を配置し、個別指導を充実させている。 ○授業の出席率は近年改善傾向にある。	B	○伝え方を工夫するなど、ユニバーサルデザイン・合理的配慮に基づいた授業をさらに推進する。 ○さらに情報を共有し、個別の支援・声かけを継続し、授業への動機付けを行う。	教務・ (教育)	
	○ICT活用教育の推進	○世の中のICTの普及と利便性より、情報活用能力の育成が必要である。	○各自の課題の解決に向け、主体的にICTの活用ができる。 ○ICT機器に抵抗感のない生徒70%以上	○ICTの活用のための教員研修と環境整備 ○ICTを活用した教材の充実 ○ICTを利用した授業実践 ○NHK高校講座でのICT活用	○タブレットは昨年に引き続き多くの先生が授業等で利用されている。 ○授業アンケートをGoogle Classroomで行うなど、授業での活用を促進している。 ○各教室にChromeBookの接続ケーブルを設置し、授業で活用できる環境整備を行った。 ○全職員対象にGoogle Classroom活用の研修会を行った。	B	○iPadを含めICT機器の活用を引き続き推進し、スキルアップを図る。 ○今後も研修会を企画し、さらなるGoogle Classroomの利用を促進する。 ○今後も引き続き、ICTを活用しやすい環境整備をしていく。	教務	
	○生徒理解と環境整備	○生徒のおかれた状況を理解し、学ぶ意欲を高める必要がある。	○安心して学校生活に取り組むことができる。	○個人面談・Hyper-QUの実施による生徒理解と個別支援の充実 ○SC・SSW・特別支援教育支援員・白鳳サポーターとの連携 ○通信制就学支援事業(学校内託児)の推進 ○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で活かす校内支援体制の推進	○中学校からの引継や関係機関との情報共有、合理的配慮申請による支援会議やHyper-QUを実施し、生徒理解を深めた。 ○各課程会議での情報共有やSC・SSW・特別支援教育支援員・白鳳サポーター・精神科学校医と連携し、情報共有を行った。 ○通信制就学支援事業(学校内託児)は、継続利用する生徒もあり、好評だった。 ○「通級による指導」を計画通り実施し生徒の満足度も高かった。	B	○共有した情報をもとに、支援方針を引き続き検討していく。 ○中学校からの引継や関係機関との情報共有、「合理的配慮」申請による支援会議やHyper-QUを活用し、個別支援をさらに充実させる。 ○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で活かすために、教職員への周知の在り方を検討する。 ○「通級による指導」に関する調査・研究をさらに進め、通級による指導を充実させる。	教育相談	
2 心豊かに他と共生する態度の育成	○基本的生活習慣の確立	○挨拶、言葉遣いなど基本的生活習慣を身につける取組が必要である。	○すすんで挨拶をし、社会人として必要な言葉遣いができる。	○遅刻・欠席の防止指導 ○積極的な挨拶・声かけ ○社会人としてのマナー指導 ○健康を意識した体調管理指導の推進	○遅刻・欠席については、担任が中心に家庭連絡など丁寧な指導を行っている。 ○自転車の交通安全指導について全体、個別で指導を行った。 ○生徒は感染症対策としてマスクの着用、手指の消毒など適切に行っている。	B	○担任、教科担当と連携し生徒情報の共有を図り、生徒の実情に合った指導を行う。 ○一部、歩きスマホ、自転車スマホ運転をしている生徒がおり、継続して指導を行う。 ○引き続き感染症対策を徹底する。	生徒	
	○自己理解・他者理解の促進	○人間関係力の育成をする環境づくりが継続的に必要である。	○生徒同士の信頼関係が醸成され、お互い尊重し合ってクラスが居心地の良い場となる。 ○学校が楽しいと感じる生徒80%以上	○生徒理解のための教員研修の実施と充実 ○エンカウOUNTERの実施 ○性に関する指導や人権教育の充実	○エンカウOUNTERを実施し、居心地のよいクラス的环境作り、人間関係作りを行った。 ○クラスが安心できる場所となり、中学校時に比べて登校が継続できている生徒が増えた。 ○性に関する指導や人権教育指導の事業、生徒理解のための教員研修を新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い、実施した。	B	○生徒間の人間関係力を引き続き育成する。 ○新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い、今後もエンカウOUNTERを実施し、安心できる居場所としてのクラス作りを行う。	教育相談	
	○個に応じた指導と集団の活性化	○人との関わり方やコミュニケーションを特に苦手とする生徒がいる。	○対象となる生徒が自分自身を認めながら自分について理解し、自らの課題に適切に対応していくことができるようになる。	○生徒ひとりひとりの課題に応じたきめ細かい指導 ○自主性を活かした部活動の運営 ○執行部活動の充実	○校内での情報共有を行い、生徒の実情把握に努めた。必要があれば外部機関の協力を得て指導をしている。 ○上級生が下級生を指導したり、部員同士で教え合うなど、生徒が自主的に活動する様子が伺える。 ○生徒会執行部運営で部活紹介スポーツフェスティバル、生徒総会が行われた。	B	○引き続き学校内外の連携を強化していく。 ○県生連大会に向け、さらに活発な活動を促す。 ○学校祭に向けた準備等、生徒企画の充実を促す。	生徒	
3 「ふるさと」とつながる心の育成	○ふるさとキャリア教育の充実	○社会の変化に対応するため、進路意識を早期に向上させる必要がある。	○自分自身の適性・特徴にあった進路実現を達成することができる。 ○自分の適性、就きたい職業について考えるようになった生徒の割合70%以上	○就職・進学講演会の開催 ○個別面談や相談の実施 ○学年団・就職支援相談員と連携した進路指導 ○アルバイト・インターンシップを通した労働観の育成	○進路LHR、担任個別指導を多く実施し、細かく情報提供を行った。 ○定時制で夏期休業中に6度の校出日进行、3・4年学年団が総出で就職ガイダンスを行ったが、9月末の内定率は、昨年度の8割越えから一転、6割を切る結果となった。	C	○就職支援員と教員の連携を深める。 ○4年次生の就職ガイダンス参加を促す。	進路	
	○「産業社会と人間」「総合的な探究・学習の時間」の充実	○社会的自立に向けて、さらに系統的な学習の確立が必要である。	○社会的自立に必要なスキルが、学年に応じて身につけている。	○系統的な学習プログラムの構築 ○学習成果発表会の実施 ○面接・着こなし講習会の実施	○コロナウイルス感染症対策から計画通り実施できない事業もあるが、体験的活動をおおむね実施し、生徒の社会性が育ち、いきいきと学校生活を送ることができるようになってきている。	B	○今後も引き続き体験活動をととして、生徒自ら進んで行動できるよう、事業を実施する。	教務	
	○関係機関との連携	○支援が必要と思われる生徒について、関係機関との連携が必要である。	○自分が必要な進路相談および対策や準備ができ、進路実現を図ることができる。	○上級学校・事業所見学の実施 ○ハローワーク、若者サポートステーション、障害者就業・生活支援センターとの連携	○コロナ禍でも実施可能な事業所・学校見学を探し、10月実施予定。 ○定時制で福祉就労に向けて、教育相談・担任と連携した。 ○通信制でハローワークの講演会を実施した。	B	○必要に応じて外部との連携を密にしていく。	進路	
4 社会的な自立に向けた支援	○体験活動とおとした社会性の育成と自己有用感の醸成	○社会的体験を積み重ね、さらに社会性を高めることが必要である。	○自らすすんで行動し自信と責任を持って活動することができる。 ○「自信がついた活動があった」と感じる生徒の割合70%以上	○定通充実事業(チャレンジものづくり体験・テーブルマナー講習・乗馬体験・校外研修・蔵書点検ボランティア)および実習を通した達成感の習得に向けた取組の推進 ○アルバイト、ボランティア活動、地域美化活動の推進	○自立に向けた活動を計画通り実施し、プレゼンテーションなど自己表現能力が身につけたり、卒業後の進路目標などを徐々に考えることができるようになってきたりしている。	B	○テーブルマナー講習会・学習成果発表会等、自立に向けた活動を計画どおり実施をする。	教務	
	○地域との交流と協働	○地域との交流をとおし、地域社会や周りの環境に対する関心をさらに高める必要がある。	○地域社会や環境に関心を持ち、異世代とのコミュニケーションができる。 ○園児との交流に積極的に参加した生徒の割合80%以上	○さつまいもの植付・収穫・会食を通した園児との交流 ○コミュニティ・スクールによる意見・提言の活用 ○淀江地区との交流を通したふるさとの特徴理解(銭太鼓・傘踊り体験、和傘作り、ヒガシバナの植栽活動、淀江さんご保存会)	○コロナウイルス感染症対策から計画通り実施できない事業もあるが、おおむね事業を実施し、地域の人々や文化に触れることで、他者との関わりや地域のつながりを学ぶことができている。	B	○今後も地域との交流活動や貢献活動など、引き続き計画した残りの事業を実施する。	教務	
	○自己表現力の育成	○自分の思いや考えをうまく相手に伝えることができないため、相手に誤解を与える、誤解してしまうことがある。	○周囲の状況に配慮した発言・行動が出来る。	○協働学習の推進 ○発表する・発表を聞くときの意識・姿勢の指導 ○一斉読書を活用した読書指導の充実	○学習発表会を見据え、産業社会と人間、総合的な探究の時間において学年団を中心に指導している。 ○毎週一斉読書を実施した。	B	○日々の授業での意識・姿勢の指導が必要。	進路	
5 学校業務改善に向けての取組	○長時間勤務の解消	○学校行事などにより長時間勤務になる時期がある。	○月45時間、年360時間を超える時間外業務がない。	○衛生委員会での時間外労働時間集計結果の周知と超勤者への声かけ ○定時退勤日・定時退勤週の実施	○月45時間超勤務者は8月まで0である。 ○超勤者への声かけをしている。 ○定時退勤の周知を怠るときがあった。	B	○衛生委員会での情報共有を密にし、教職員全体で超勤を減らす取組をしていく。 ○定時退勤日・定期退勤週を設定し、周知する。	衛生委員会	
	○働く上で効率のよい職場環境づくり	○職員室など整理が必要などところもある。共有フォルダもデータが整理・整頓がいきとどいていない。	○快適な職場環境で業務が効率的にできる。	○校内安全点検の実施と破損箇所等の迅速な改善 ○教職員の整理・整頓意識の啓発 ○共有フォルダの整理 ○職場環境での感染予防対策の徹底	○7月に安全点検を実施し、危険箇所等の確認をした。 ○職員室は比較的整頓されている。 ○共有フォルダの一時保管場など整理はまだ不十分などところがある。 ○日常的にマスク着用や校内消毒を行っている。	B	○後期も安全点検を実施する。 ○共有フォルダの整理を推進していく。 ○引き続き感染予防に努め、業務にあたる。	衛生・事務	

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
(100%) (80%程度) (60%程度) (40%程度) (30%以下)